

## 下地にまつわる留意事項〔建築主、設計者向け情報、元請け向け情報〕

ビニル系床材を施工する下地には大きく分けてコンクリート系下地とそれ以外の下地があります。ビニル系床材の多くはコンクリート系下地への接着により施工されることが前提となります。下地ごとに留意点が異なりますので、施工にはそれぞれ配慮が必要です。

### ●コンクリート系下地

ビニル系床材を接着施工する下地には湿気がなく、平坦で表面強度があることが求められます。これらに不具合がある場合は、下地の調整・補修を行ってから床材を施工する必要があります。

カーペットタイルを施工する下地は湿気がなく、平坦で強度のあることが必要です。下地から絶えず湿気の上昇が予測される場所では施工を避けてください。接着不良や臭気が発生することがあります。

＜湿気＞ 湿気の上昇が想定される場所では強アルカリ化した水分の影響により臭気が発生や接着力の低下、それにともなう目地すき、突き上げ、剥がれやふくれ等の事故が生じる可能性が増加します。これらの事故を抑えるためには、高周波水分計等を用いて下地の乾燥度状態を確認してください。

参考：ケツト社 高周波水分計HI-520-2による下地乾燥度

選択ダイヤル設定	厚さ設定	一般工法判定基準*
コンクリート	40mm	4未満
D.MODE	40mm	440未満

※基準上限に近いときは安全をみて、耐水工法もご検討ください。

＜表面強度＞ 一般的な用途としては0.5N/mm<sup>2</sup>程度の表面強度が必要です。コンクリート打設時のレイタンスの発生や雨打たれによる表面強度の低下がある場合は、脆弱な部分を除去してください。

＜平坦性＞ 不陸、うねり、段差等のある下地にそのまま床材が施工されるとその不具合が仕上げ表面に現れる等、見栄えの悪い仕上がりとなる可能性が増します。適切な補修材等を用い、平坦な下地を確保してください。⇒P.354 下地補修材について

### ●コンクリート系以外の下地でとくに必要な配慮

＜鋼板下地＞ 鋼板下地の場合、錆の発生が懸念されるため床材を直接施工することは避けております。まず床施工に用いるエポキシ樹脂系接着剤により強固で適切な防錆処理を行い、その後その防錆材への接着性を確認のうえ、適用の可否を判断してください。

＜二重床下地＞ 配線・配管用二重床でメンテナンス〔パネルの開閉〕が必要な場合、置敷き施工可能な床材以外は適用できません。また、構造用二重床で開閉の必要がない場合には普通合板等で下地を作り、施工することが可能なケースもあります。

ただし両者とも下地に不陸〔パネルの継ぎ目や段差等〕があれば、床仕上げ材の表面に現れる可能性があります。これらの不具合がある場合は、パネル敷設業者に修正を依頼してください。

開口部が大きい二重床下地へのカーペットタイルの施工は、荷重によりカーペットタイルの破損等のおそれがありますので、ご注意ください。

＜既存ビニル系床材が下地＞ 既存床への重ね貼りは、現場ごとに配慮する事項が異なるため、基本的には剥がし貼り替えをお勧めしています。

一般的な配慮事項としては、既存床の浮きや剥がれ、柔らかさ、既存床およびその接着剤の耐溶剤性、平滑性、ワックスの有無等です。一般的に、ワックスを剥がし、めあらしを行い、ウレタン系接着剤で施工自体は可能ですが、不具合のリスクが大きくなります。

＜普通合板、木質下地＞ 普通合板、木質下地の場合、根太間隔、通風状態等により、経日でのたわみ、反り、あばれ等が生じやすいため、下地材突き付け部が線となって仕上げ材表面に現れる可能性があります。

これらは木質のため圧縮強度も高くありません。大きな荷重が掛かる用途ではへこみや劣化が生じやすく、用途によっては下地としては不適当な場合があります。

住宅等で床下地や壁下地が普通合板等の場合、木材用防腐剤・防蟻剤によって床材が黄色または褐色に変色するケースが報告されております。

＜塗床等の非透過性下地＞ コンクリート下地と比較し、接着剤の染み込みがないため、本来よりも接着強度が低下する可能性があります。接着強度確保のため、下地にめあらし処理を行い、反応系接着剤の採用をお勧めしています。事前に接着性を確認のうえ、適応の可否を判断してください。

◎普通合板、木質下地での配慮や工夫

＜床材の選定＞ 荷重によるへこみ、下地合板の目地等の発現軽減には表面が平滑な材、無地な材は避け、エンボスや柄のある床材を選ぶことで効果があるケースもあります。

＜接着剤の選定＞ これらの下地は接着剤を塗布しても接着剤の溶媒成分をほとんど吸い込みません。施工直後のふくれ、使用による剥がれといった不具合を減らすため、通常はエポキシ樹脂系、ウレタン樹脂系等、反応硬化型接着剤を推奨しております。ただし下地合板目地の発現軽減には、接着剤の塗布量や待ち時間を調整したり、接着強度の弱いアクリル系接着剤を意図的に用いたりするケースもあります。

どれが正解ということではなく、“優先させる事項”を建築主と十分に打ち合わせ、施工法を決める必要があります。

## 施工、材料保管や養生について

### 床材施工前の準備等での留意事項〔元請け向け情報、工事店、施工者向け情報〕

施工の前に必ず施工要領書を確認してください。

＜リスクアセスメント＞ 使用する製品のSDS（安全データシート）を入手し、工具の使用や作業方法、施工方法から、リスクアセスメントを実施してください。

＜材料＞ 梱包箱や梱包紙に記載されている品名、規格、色番号、ロット番号、数量等を確認し、同一床面には同一ロットの材料を用いて施工してください。

＜下地の汚染除去＞ 下地に塗料、ゴム系接着剤、油脂類等が残ったまま床材を施工すると、それらの成分が床材に移行し、床材表面に浮き出てくる事故があります。また、下地に対し行った墨出し、インキペン、チョークによる表示等も接着剤や下地湿気等を介し床材に移行し、表面に浮き出てくる事故も報告されています。事故回避のため床材施工前には下地にあるこれらのものを十分に除去されることをお勧めいたします。

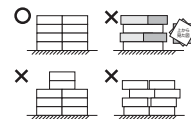
下地にサインを記す際は非染色性、非移行性等のものを用いるか、施工前に削り取ることをお勧めいたします。

＜開梱＞ 開封の際は梱包紙やダンボール、床材のエッジ等でケガをしないように十分ご注意ください。

＜床材の養生＞ 床材はあらかじめ室温になじませ、接着を阻害する結露や施工後の伸縮を抑える養生を行ってください。

とくにシート床材は湿気のない平坦な面に広げて巻きのくせ取りを行い、施工の準備を行ってください。

＜タイル養生＞ タイルを箱からだして積み重ねる場合、高さは1m以下までとしてください。また、タイルの辺を揃えて積み重ねてください。ずらして積み重ねるとタイルにくせがつき、施工時に納まりにくくなったり、施工後に目違いや反りなどの不具合となる場合があります。



### 接着剤、下地補修材等の留意事項〔元請け向け情報、工事店、施工者向け情報〕

接着剤、下地補修材および下地表面強化材の用途、用法は製品表示または添付の使用説明書、当カタログの“商品紹介および使用法”等を確認し、関連法規と施工技術を理解された方が施工または立会いを行ってください。

＜選定＞ 接着剤は部屋の用途、床材や下地の種類、工法仕様、施工時の日射や通風、温湿度等に対応するためいろいろな目的で設計されています。また、フラッター類補修材はコンクリート、モルタル下地用として、強化材はコンクリート系下地表面強化と不陸調整用としてそれぞれ屋内の使用を前提に設計されています。工法仕様や下地の状態を確認のうえ、本来の性能が発揮される選定を行ってください。なお、状況により適用外の床材や下地との組み合わせで施工されるケースもあります。その場合には部材や工法の特性を踏まえ十分な知識を持った方の監督のもと、事前の試験貼りで問題のないことを確認してから本施工を行ってください。

＜立会い＞ 下地表面強化材〔荷重床プライマー、荷重床ハードナー、荷重床パテ〕、溶剤形接着剤〔セメントUK、EP20、EP30、U10、U、RV、およびVG、等〕は有機溶剤を含有しております。

有機溶剤は引火しやすく危険を伴い、また蒸気を多量に摂取すると人体に悪い影響をおよぼすおそれがあります。使用するときは、有機溶剤作業主任者が立会い、労働安全衛生法、有機溶剤中毒予防規則に従い、**火気厳禁**、室内換気のもと、作業してください。

＜保護具＞ 接着剤は直接皮膚に触れたり、気化した溶剤を吸引したりすると健康障害をきたすおそれがあります。防護のため、規定の保護手袋、マスク、保護眼鏡等を着用してください。

＜工法仕様＞ 引渡し後、床材の上から水掛かりのおそれがある部屋や用途、また直土間等が下地となる場合は、一般工法用接着剤では接着強度が足りず不適切な選定となります。耐水工法用の接着剤〔エポキシ樹脂系・ウレタン樹脂系〕を選定してください。

窓からの日射や機器の発熱など、温度変化が大きい部位は、水性系接着剤で施工すると床材の不具合につながる場合があります。そのよ

うな部位には、耐水工法（ウレタン樹脂系接着剤やエポキシ樹脂系接着剤）を選定してください。

＜有効期限＞ 接着剤、下地補修材には製造年月日、および有効期限を表示してあります。有効期限内のものを使用してください。

＜開封＞ 開封の際は缶の切り口、開封用具のエッジ等でケガをしないように十分ご注意ください。

＜攪拌＞ 接着剤、補修材は液状のため比重の高い充填材等が沈降し、樹脂分が上澄みとなって分離していることがあります。容器を開封後は、ヘラ等でよく混ぜてから使用してください。

＜混合＞ エポキシ樹脂系接着剤〔セメントEP20、EP30〕は反応硬化形で、主剤（A液）と硬化剤（B液）から成る二液混合形です。それぞれを別々に攪拌後、二液を1：1（重量比）の割合で別の容器にとり、よく混合してから使用し、混合したものは使いきってください。

＜塗布＞ 塗布に用いるくし目ごては、容器に添付されているもの、もしくはJIS規定のくし目形状のものを使用してください。接着剤は1回で貼り込める面積ごとに区分し、規定のくし目ごてで均一に塗布し、粘着を生じる適切なオープンタイム（待ち時間）をとってから床材を貼り始め、張付け可能時間内に貼り終えるようにしてください。

カーペットタイルの施工では下地全体に、ローラー刷毛や地ペラを用いてスベリ止め剤を塗布し施工します。下地の種類によってはくし目ごても使用します。また、接着強度が不足している場合、荷重等により目地ズレ等の不具合が生じる場合があります。とくに切り込み部等、端部ではご注意ください。

＜使い残し＞ 開封後の接着剤（使い残し品）はしっかり封をして、一週間以内に使いきるようにしてください。一度下地に出した接着剤を容器に戻す場合は異物が混入しないようにしてください。

＜廃棄＞ 接着剤、補修材類および使用済容器等を廃棄する場合にはSDSを確認し、専門の産業廃棄物処理業者へ委託してください。

